



スマイル天神 No.39



令和4年1月24日
天神小学校
校長 木下 和弥

思いやりのある子・進んで学ぶ子・明るくたくましい子

本当に大変なときこそ…

他愛もないエピソードで申し訳ありません。私は小学生の頃、食が細く、背も低くやせていて、運動も苦手で、勉強も得意な方ではありませんでした。学級の中でも弱い立場であったと思います。給食が大の苦手で、特に豚の脂身が出てくると、飲み込むことができずに一度嘔吐してからは、パンにはさんで持ち帰るという、ずるいことをして逃げていました（給食を最初に減らすことができない時代だったのです）。しかし、そのずるいことも見つかって、昼休みや、時には掃除が始まってからも給食を食べることが何回もありました。本当に苦しかったです。

しかし、小学3年生の頃の担任の先生が「一口でいいから頑張ってみよう」「無理な時は無理じゃなくていいよ」と言ってくださって安心したのか、そこから少しずつ食べられるようになりました。しかし、小学6年生の頃、給食にありえないほど大きな豚肉の脂身がありました。そのおかずを見て愕然としている私の後ろで、クスクスと笑い声が聞こえました。「ちゃんと食べろよ。」という声も聞こえました。誰かのいたずらだったのでしょうか。

逃げ出すこともできず、目に一杯涙をためて、その給食をどうしようかと小さな身体と頭で考えこんでいました。給食を減らすことはできない。残すこともできない。先生に相談もできない。誰も助けてくれない…。そう思っていた時に、同じクラスのM君という子が、その様子を見て状況が分かったのか、私の給食の上にある大きな脂身を箸でつかむと、それをゴミ箱におもいきり捨てました。「こんなの誰も食えん。」と言って。

そのM君はクラスの中でも、とても強い子どもでしたので、その行動に対して、誰も何も言えず、先程笑っていた子どもたちも、うつむいていました。私はそのM君がまさに神様のように見えました。それまで普段仲よく遊んだこともなければ話もそんなにしたことありませんでした。そのM君に何かを恩返ししなければと思っていましたが、結局そのあと何も返すことができませんでした。40年以上前の出来事ですが、今でも鮮明に覚えています。たかだか小学生のエピソードです。しょせん、小学生の言動です。しかし、本当につらく困った時に、小学6年の子どもが小学6年の子どもを助けてくれたのです。

今、本当に辛く、苦しい思いをされている方がいらっしゃるかと存じます。子どもが学校に行けず、同居家族も自宅待機。面倒を見るために仕事を休む。仕事に行けず収入が激減。感染リスクが高い高齢者がいるために家庭内別居などかなり神経を使った毎日…。

そんな時に、先程の子どものように、こそこそと笑うのか、無理強いを言うのか、不平不満を言うのか。誰かのせいにして、その誰かを傷つけるのか…。

それとも、辛く苦しい思いをされている方々の思いに寄り添って、共に助け合いながらこの難局を乗り切るのか。本当に苦しい辛い時こそ、このようなピンチの時こそ、本当の人としてのあり方が試されているのだと思います。

私たち学校も、教職員も、全員で力を合わせ、子どもたちのために精一杯に取り組みます。何かご不安等ありましたら、遠慮なくお知らせください。

天神小一徳運動 「気持ちのいいあいさつ」 ～あじさいあいさつを～

～**あ**いての目を見て **い**ぶんから **さ**わやかな声で **い**つでも・どこでも・誰にでも